

活動名 第16回日本ジャンボリー	団体名	日本ボーイスカウト山口県連盟山口第3団
	地域	山口県山口市
	代表者	団委員長 松永 正巳
	支援金額	25万円
活動概要		
<p>ボーイスカウトは野外活動や奉仕を通じて青少年育成活動を展開している。平成25年8月に山口市において第16回日本ジャンボリーが開催された。このジャンボリーは全国から13,000人、海外から1,500人のボーイスカウトが集まり交流や体験を通じて友情や国際感覚が身に付き、青少年の成長が期待される我が国のスカウト運動の最大の教育イベントである。こども達は長期間8泊9日のキャンプ生活で協力することの重要性を学び、他県、各国との友情を育み、また平和について考えるプログラムなどで、大きく成長することができた。</p> <p>◆実施時期 平成25年7月31日～8月8日 山口県山口市阿知須 きらら浜</p> <p>◆参加人数 山口第4隊として、萩市、山口市(山口第3団)、防府市のスカウト34名、リーダー6名が参加</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:40名</p>		



台湾スカウトとの交流



キャンプでの食事風景



嵐の後片付けを海外スカウトと



日本中、世界中のスカウトとショーを楽しむ

◆実施に伴う効果

地元山口市で実施された日本ジャンボリーでは、初めての試みとして山口市内の学校訪問等も実施され、地元の子ども達も海外スカウトとの交流で多いに国際感覚を養えたと思う。我隊のスカウトも会場内で海外スカウトとの交流(特に台湾)を通じ、国際感覚の高揚につながった。また、山口県や山口市の支援もあって、ボーイスカウトへの新規入隊者も増え、低下傾向であったボーイスカウト運動が活発化してきた。2年後も世界ジャンボリーが開催されることから、山口市内のボーイスカウト活動が今後ますます活発になることが予想される。

◆苦勞した点

- ・準備は昨年の10月から始まり、リーダー、スカウトとの調整、事前の準備品、準備訓練等、参加隊としての準備が本当に大変であった。マーキーテント等は高額の準備品であり、購入できずに困っていた。
- ・アジアのスカウトが多く参加し、英語を使う場面が多かったが、能力不足で苦勞した。
- ・活動期間中、突然の嵐で機材が壊れ、大変であった。

◆今後の課題・発展の方向性

2年度には世界スカウトジャンボリーが、今年と同じく山口市きらら浜で開催されるので、今回の日本ジャンボリーで通関した語学力不足について今後のスキルアップが必要と感じた。(リーダー、スカウト共)今回のジャンボリーはマスコミにも多く取り上げられ、地元ではかなりボーイスカウトの認識が高まったので、地元団がますます活発になるよう取り組んでいきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

8月のもっとも暑い中でのキャンプで健康問題が一番心配していました。活動期間中、熱中症で休むスカウトも多かったのですが、参加した34名が無事に帰ることができほっとしています。子ども達の感想文を見ると「つらかったけど、楽しかった」という言葉が多く、非常にいい経験をさせることができたのではないかと思います。マツダ財団の支援のおかげで、必要機材もそろえられ、途中の嵐(風速30m/s以上)で古いテントは2つ破損しましたが購入したテントは耐えてくれました。今後の活動でもフルに活用させていただきます。本当にありがとうございました。